・武石先生
○自分のクラスでもグループワークを行っているが、人数が少ないため班の人数を調整している。現在は１班３、４人ほどの５班編制。授業は予習を前提としており、授業が始まったらすぐに板書するように指示している。生徒が板書している間に、その内容について他の生徒に質問することもある。
・北島先生
○理型の中でも数学が苦手なクラスを担当している。自分のクラスでもグループワークを行ってみたが、そもそもの発端の部分すら生徒からは出てこず、結果的に板書などで生徒に指導し､その後グループワークを行っていない｡何か方法についてアドバイスはあるか。
　→最終目標の問題より１、２ランク落とした問題を解かせてみて、手応えがあればグループワークを取り入れてみてもいいのではないか。それぞれのクラスのレベルに応じて方法を考えてみてもいいと思う。教員側からヒントを出すのも方法の１つである。
・五十嵐先生
○以前文系の中でも数学が苦手なクラスを担当していたが、グループワークを行うことは考えもせず、ひたすら繰り返し演習を行っていた。同じ問題を繰り返し解かせることもしていた。
・潤子先生
○下のクラスを担当していた際、１問に対して３人のグループで無理にでも解かせるようにしていた。結果的に責任感が生まれ、授業も進むようになった。下位のクラスにこそグループ学習を取り入れてみるのも１つのアイデアである。
・松永先生
○「求める面積は図の境界線を含む」という記述をしていた生徒がいた。境目などにおける記述について「数学では厳密にやります、物理ではいい加減ですね」などと生徒に言われることもあるが､そのような記述はどのあたりまで正確に書かせるよう指導しているか。
　→そこまでの配慮はしていない。他にも「境界線を含む、含まない」という記述の必要がある問題があるため、その辺りと混同しているのではないか。
・武石先生
○漸近線について「極限を求める必要がある」という説明を生徒がしていたが、大事なことは曲線の両端がどのような動きをしているかを確かめることである。また、今回の問題については漸近線を求める必要は無いため、それぞれの問題において何を求めなければいけないかきちんと理解していない生徒もいるのではないか。
　　必要最小限の情報だけ求めればいいのか。
○漸近線と接線の傾きによってはｘの値が１より小さい点で接線とグラフが交わることもある。今回の問題は該当しないが、そのようなことも考慮するとグラフをかかせる必要があるのではないか。
・江畑先生